AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

AGU News

AGUニューズ第70号［2014年1月～3月号］

2014
No.70

青山学院大学
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
URL. http://www.aoyama.ac.jp/

特集

進化する相模原キャンパス

理工学部
社会情報学部

学部長インタビュー／リケジョインタビュー／学生受賞報告

TOPICS 産官学連携シンポジウム開催報告
比較芸術学会発足記念講演会開催報告
経済研究所講演会開催報告
経営学部グローバル･ビジネス研究所講演会開催報告
アディダス ジャパン(株)とパートナーシップ契約を締結

誌上公開講座 Aogaku Lecture⑬
ワークショップデザインの実践的研究

INFORMATION 2013年度 青山学院学術褒賞
春期休業期間中の窓口案内
2014年度 学費納付のご案内

第90回東京箱根間往復大学駅伝競走　総合5位でゴール

学部長 Interview
理工学部
社会情報学部

特集 進化する相模原キャンパス

就学キャンパスの再配置以降、理工学部と社会情報学部はさらに魅力ある教育・研究を進めています。国内外トップレベルの研究施設・設備の整ったキャンパスで繰り広げられる先進的な取り組みで、これまで以上に注目を集める２つの学部。各学部長にその内容について聞きました。

グローバルな活躍を目指したカリキュラム改革や新プログラムで、さらに学生の専門性と技術力を伸ばします。

理工学部の特長を教えてください。

理工学部は6学科で構成され、約2,600名が在籍しており、女子学生数も年々増加傾向にあります。また、専任教員は134名で、1学年の学生定員数で計算するとおよそ4～5名の学生に対して教員1名という比率になります。理工学部は実験や演習が多いので、少人数のきめ細かい教育が重要だと考えています。どの学科に入学しても、1年次では全員が必ず共通の5つの実験科目を履修し、各学科における専門分野の基礎を養います。加えて、1年次のうちから専門必修科目を設けることで、専門的な学習を前倒しで行っています。

2013年度にスタートした新カリキュラムや、来年度から新たに始まるプログラムとはどのようなものでしょうか。

2013年度入学生から英語のカリキュラムが新しくなりました。これまでは必修・選択必修科目が学科ごとに異なっていましたが、全6学科をあげて統一して開発した科目を設置しています。1・2年次とも能力別にクラスを編成し、より実践的な英語力を身につけるために、読解力や聴解力、作文力をバランスよく伸ばす授業を展開しています。さらに3年次には発展的内容の10科目の中から2科目を選択し、理工分野ならではの英語力を高めていきます。「Study Abroad」という短期海外研修には1年次から参加できます。そして一定の条件を満たせば単位として認定されます。

2014年度入学生からは、2つのプログラムがスタートします。1つめは、日本の基幹産業の海外展開に貢献できる能力を養う「理工学国際プログラム」です。修了すれば、理工学部から認定証を授与します。

2つめは、高い実践力を持つ人材育成のために設置するプロジェクト型の学習・研究の「理工学高度実践プログラム」です。これは、2年次、3年次という早い段階から研究を行いたいという学生の期待に応えるもので、多彩なプロジェクトを用意しています。こちらも、優秀な学生には認定証を授与します。

カリキュラムが強化されると、就職率アップにもつながるでしょうね。理工学部の就職状況について教えてください。

2012年度の卒業生に関していえば、理工学部の進路決定率は約93%と、文系学部の平均よりも高いです。そのうち約37%の学生が大学院に進学しており、さらにスキルアップして毎年100%に近い大学院生が就職しています。中高一貫教育のように、これからは大学・大学院一貫教育という傾向になるのではないでしょうか。業種も、鉄道・自動車・情報通信・印刷など実に幅広いのが、理工学部の特長です。技術系だけでなく、総合職に就職する例もあり、それだけ優れた人材を輩出できていると言えるでしょう。

確かに大学院生の活躍ぶりも注目すべきだと思います。国内外で多くの賞を受賞していますね。

とても喜ばしく、素晴らしい経験だと思います。受賞は、本人はもちろん、一緒に研究する仲間や研究室全体にも良い影響を与えるので、理工学部と大学院理工学研究科としては、より積極的に国際会議に参加するよう勧めています。準備はかなり大変ですが、英語で論文を書き、発表するという経験は、社会に出たときに必ず大きな力になると思います。

理工学部の今後の展望を聞かせてください。

国内外トップレベルの研究施設・設備が整った恵まれた環境と相模原の立地を生かした取り組みを積極的に実践していきたいと思っています。学外との共同研究や教授による外部企業の技術者向けセミナーの開催など、地域や社会との連携もさらに強めていきたいですね。また、理工学部と大学院理工学研究科の連携をさらに密にして、今後も学部生や大学院生たちが実践を通じて成長できる場を積極的に用意する予定です。

理工学部長
理工学研究科長
橋本 修

異分野の融合で新たな発展を生み、複数の領域を並行して学ぶことで、社会が求める総合力を強化します。

社会情報学部の特長を教えてください。

現代社会における問題は複雑かつ多岐にわたり、特定の分野の知識だけでは解決できない問題が数多くあります。社会情報学部では、文系・理系の枠を超えた「社会」「情報」「人間」の分野を融合させた学びによって、様々な分野の知識を身につけ、複合的な視点から解決策を見出す力を養うことに主眼を置いています。

それを最もよくあらわしているのが、「学際的融合領域を学ぶ」新しいカリキュラムですね。どのような特長があるのでしょう。

社会・情報・人間の3つの分野を重ね合わせた「リエゾン」という融合領域を含むカリキュラムを構成して、2013年度で2年目となります。従来の専門領域をベースにしながら、別の領域にもきちんと目を向けることで、解決困難な課題にも幅広い視野をもってチャレンジできると思っています。

様々な領域に目を向けて羽ばたこうと、可能性を模索する学生のために、本学部では必要な科目をしっかり学べるカリキュラムを用意しています。現在、社会で必要とされている情報処理技術や統計を、その後の専門性とは関係なく必修科目に設定しているのは、その現れです。

本学部で大切にしていることは、社会に幅広く貢献していくために必要な学び。人に例えると重要な骨格・筋肉は理系の学びでつくり、様相・態度・行動は文系の学びによって土台をつくります。その上でさらに発展させるために、学生には「既存の学部にはない特徴を意識しよう」と言っています。「特定の領域だけではなく異分野を意識して考えていこう」と。社会と情報、人間と情報、人間と社会。その融合によって学びの個性がつくられます。軸足を情報側に置くか、人間側に置くかで、色あいも違ってきます。複数の領域を意識しながら極めることが重要なのです。

社会情報学部は2008年に設置された比較的新しい学部ですが、すでに社会で活躍されている卒業生もいます。就職状況について教えてください。

社会情報学部の2012年度卒業生の就職者率は、学内でも最も高く位置づけられています。情報系を中心とした理系分野にも進出可能、しかも人文社会系の学びを通じた総合力を持つ人材を育成しているということが、高い就職者率につながっているのだと思います。

就職活動において学生に求められるのは、適確に自己主張ができるかどうかです。また、社会で必要とされている理系的要素を備えているかどうかも、重要なポイントとなります。本学部では、英語・コンピュータ・数学を基礎科目とした上で、異分野融合領域「リエゾン」を学んでいます。理系を軸に、文系要素で幅を広げる。そのような学生たちの可能性を、企業側も感じてくださっているのではないでしょうか。

大学院生の活躍、また今後の展望についても聞かせてください。

大学院社会情報学研究科博士前期・後期課程には研究発表における受賞者のニュースも届いています。分野の特徴から、学際的、実践的な研究を期待したいです。

大学院への進学は、今後力を入れていかなければならないですね。融合領域を学んで総合力を身につけた学生たちは早く実社会に出たいと思うようですが、大学院でさらに学べばより社会で求められる力が身につきます。社会情報学部で学んだ学生が大学院に進み、将来はこの学部に教員として戻ってくるようなサイクルもつくっていかなければなりません。

卒業後に学生時代を振り返ったとき、アカデミックな要素と実践力を養う学びや、文系・理系に関わらず、様々な領域を学んで良かったと思ってもらえるように、カリキュラムや学ぶ環境をより充実させていきたいと思っています。

社会情報学部長
社会情報学研究科長
稲積 宏誠

リケジョ インタビュー

特集 夢に向かってチャレンジする理数系女子

国内外トップレベルの研究施設・設備の整ったキャンパスで学ぶ、理工学部と社会情報学部の女子学生たち。あふれる情熱と努力でそれぞれの夢に向かっています。今や企業も注目する「リケジョ」たち。何を目指し、どのように学んでいるのか聞いてみました。

College of Science and Engineering

池田 亜瑞沙さん
理工学部
物理・数理学科4年
増田 哲准教授研究室所属
神奈川県立相模大野高等学校出身

“得意科目”から“好きな科目”へ。数学の本質を理解することで、自分の世界がどんどん広がっています。

実生活では数学の役割をあまり実感できないという人も多いと思いますが、数学というのは、他の学問へ応用されることで真価を発揮する学問ではないでしょうか。中でもいちばん密接で、相性が良いのは物理学だと思います。その２つの分野を一緒に学べるのがこの学科の魅力です。高校時代は数学が得意科目で、問題を解き、解を求めることに一生懸命でした。それが数学のすべてだと思っていましたが、解を求めることはあくまでも数学的な世界を見るための手段であって、本質ではないということを大学の学びで知り、だからこそ数学は面白いのだと感じました。

数学を世界地図に例えると、いろいろな国々が数学の分野になります。ある国には方程式という船で渡り、またある国へは解に現れた関数が架け橋となって渡ることができるなど、さまざまな手法によって、自分の世界がどんどん広がっていきます。現在増田先生の研究室で研究している「パンルヴェ方程式」にも面白い構造が見えていて、どのような意味が隠されているんだろうと無限の広がりを感じずにはいられません。

「好きなことは何でもやりなさい」とたくさんのチャンスを与えてくださったり、「わからないときは素直に言いなさい。一緒に考えるから」と声をかけてくださる増田先生のもとで学び、とても有意義な学生生活を送っています。今後も大学院に進んで精一杯、研究を続けていきます。

College of Science and Engineering

女子校出身でもすぐに馴染める雰囲気。明るい仲間と最高の学習環境で思いきり研究に没頭できます。

高校生の頃にも先進的科学技術体験合宿プログラム「サイエンスキャンプ」に参加するほど数学・物理が好きで、特に生活に密着した電気について研究したいと思い、電気電子工学科に進学しました。中高一貫の女子校出身なので少し不安もありましたが、明るくフレンドリーな理工学部の雰囲気にすぐに溶け込むことができました。なんといっても、緑豊かな広々とした環境と最新の研究施設・設備は、相模原キャンパス最大の魅力です。オープンキャンパスで訪れた際に感動し、「好きなことをこのキャンパスで学びたい」と望んだ通り、大学生活はとても充実しています。

現在は、光応用計測・光センシング技術応用の研究として、さまざまな種類の光ファイバーにおける伝搬特性を調べています。外林先生の研究室に所属し、研究室のパソコンで理論値計算とシミュレーションを重ね、最近ようやくレーダー装置を用いた実験に取りかかったところです。この研究結果によっては、将来例えば高速かつ高精細に距離を測定する事による自動車両運転に応用できるかもしれません。研究結果が出るまで気を抜けない日々が続きますが、精度や誤差を確認するという目標達成に向けてがんばります。

卒業後は、コピー機や通信機の点検・修理を行うカスタマーエンジニアとして働く予定です。現場対応では習得した専門知識を生かし、状況をお客様にわかりやすく伝えていきたいと思っています。

倉本 理央さん
理工学部
電気電子工学科4年
外林 秀之准教授研究室所属
東京・私立実践女子学園高等学校出身

College of Science and Engineering

ものづくりの苦労が、醍醐味に変わる。理数系は苦手だったけれど、挑戦したいことを諦めないで良かった。

水井 温子さん
理工学部
機械創造工学科4年
熊野 寛之准教授研究室所属
神奈川・私立聖ヨゼフ学園高等学校出身

ものづくりに携わりたくて機械創造工学科を選択し、初めての実習では鉄板で鉛筆立てをつくりました。糸鋸（いとのこ）のようなカッターで鉄板を切り、断面を機械で研磨する際に「こんなに大変なんだ」と実感しましたが、やはり素材や構造についての知識を深めながらモノをつくるのはとても面白いです。もともと流体に関心があったので、流れるものを介した熱との関わりや、熱についての研究をしようと熱工学について研究できる熊野先生の研究室に所属しました。

現在は、「氷蓄熱に関する研究」というテーマのもと、氷とエタノールの混合物である“アイススラリー”を、冷やしたとき、あるいは熱を加えたときに生じる変化を調べています。“アイススラリー”は将来的に、空調などに用いて電力を均一にするという目的で広く研究されている興味深いものです。研究を始めるにはまず実験装置をつくることから始めます。そこが難しくもあり、醍醐味でもあります。ようやく完成した装置を前に、いよいよ始まる研究に胸を躍らせています。卒業後は大学院でさらに熱工学の研究を続けることにしました。

数学と物理は苦手だった私ですが、やりたいことをしっかりと見つめていれば何でもがんばれるものです。理数系は難しそうと敬遠されがちですが、苦手意識でやりたいことを諦めてしまうのはとてももったいないと思います。非常に面白い分野なので、ぜひもっと多くの女性にもチャレンジしていただきたいと思います。

学ぶほどに新たな興味が広がる分野。問題を分析し、解決していく思考力は、社会に出たときにきっと役立つと思います。

School of Social Informatics

“大好きな数学”と“興味深い経営”の両方を学びたかったので、オープンキャンパスで訪れた際に社会情報学部の存在を知ったときは感激しました。「文理融合なら私にぴったり!」と思ったと同時に、幅広く学ぶうちに他にもっと興味のある学問分野が見つかるかもしれないという期待もふくらみました。現在は、本当に学ぶことが楽しくて仕方ありません。「システム分析・設計基礎」や「ナレッジマネジメント」など、大学で初めて触れた情報系の授業も自らすすんで学ぶことができました。問題点を洗い出し、情報を精査した上で分析し、最適な解決策を見つけていく作業や、ある前提と結論とが結びついているプロセスをわかりやすく解き明かしていく学びは、「考える力」を大きく伸ばしてくれたと思います。物事を整理して良い方向に導く思考力は、将来社会に出てどのような仕事に就いても、あらゆる場面で役立つものだと思います。

私は宮川先生のゼミに所属し、卒業研究では、「高齢者コミュニティを想定した買い物弱者対策」というテーマを選びました。近所に商店がないために生活用品の購入にも困っている高齢者に焦点をあてて論文をまとめています。過疎地だけでなく、都市部のニュータウンでも起こっている問題点に気づき、解決に向けて思考する充実感を、ゼミで学ぶことができました。社会情報学部は学ぶほどに興味の幅が広がり、学ぶ楽しみが実感できる学部だと思います。

橋本 みずきさん
社会情報学部
社会情報学科4年
宮川 裕之教授ゼミ所属
神奈川県立横須賀大津高等学校出身

学生受賞報告

理工学研究科　理工学部
社会情報学研究科　社会情報学部

青山学院大学および大学院の多彩な取り組みや研究の多くは、社会から非常に高い評価を受けています。その中から今回は、理工学・社会情報学の分野で、学会やシンポジウムなどにおいて賞を贈られた学生と研究内容を紹介します。

理工学研究科

理工学研究科の古武 悠さんと米川 早紀さんが「Best Poster Award」を受賞

2013年9月16日（月）～20日（金）に、同志社大学京田辺キャンパスで開催された「2013 JSAP-MRS Joint Symposia（応用物理学会・米国物質科学会合同シンポジウム）」で、理工学研究科機能物質創成コースの古武悠さん、米川早紀さん（ともに博士前期課程1年・重里有三教授研究室所属）の研究発表が、「Best Poster Award」を受賞しました。この賞は、研究内容とともに英語でのプレゼンテーションが特に優秀と認められた研究発表に対して贈られるものです。古武さんの研究は、「反応性スパッタ法による酸化チタン薄膜における結晶成長に関する研究」。透過型電子顕微鏡による高度な結晶構造解析結果が、今後の幅広い研究分野で非常に役立つユニークな研究であるとして評価されました。また、米川さんの研究は、「ネオン、アルゴン、クリプトンを用いた反応性スパッタ法による脱インジウム透明導電膜の合成」。環境技術や情報技術での持続可能性を追求する研究成果であると同時に、薄膜太陽電池等への応用の可能性を開くものとして、「Best Poster Award」にふさわしいと認められました。また、海外から参加した多くの招待講演者から、二人の英語によるプレゼンテーションの完成度の高さも賞賛されました。

受賞した米川さん（左）と古武さん（右）

理工学研究科・理工学部・社会情報学部

第10回神奈川産学チャレンジプログラムで大学院生・学部生3チームが「最優秀賞」「優秀賞」を受賞

神奈川県内の大学を対象に、一般社団法人神奈川経済同友会が主催する「第10回神奈川産学チャレンジプログラム」において、本学の大学院生、学部生合計3チームが受賞しました。

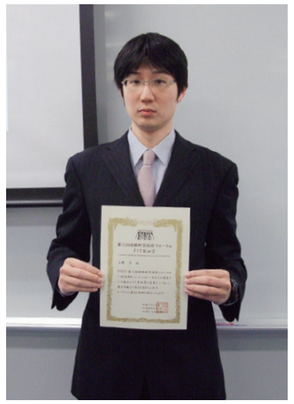
受賞した景山さん（左）、百村さん（中央）宮下さん（右）

【最優秀賞】
テーマ「ホテルウェディング需要を活性化する新たな提案」（株式会社横浜ロイヤルパークホテル）
宮下 瑛志さん（理工学研究科マネジメントテクノロジーコース博士前期課程1年）
神谷 喜穂さん（理工学研究科マネジメントテクノロジーコース博士前期課程1年）
百村 太貴さん（理工学研究科機能物質創成コース博士前期課程1年）
景山 広樹さん（理工学研究科マネジメントテクノロジーコース博士前期課程1年）
【優秀賞】
テーマ「路線バス利用促進策の提案」（神奈川中央交通株式会社）
藤田 一樹さん（理工学部経営システム工学科4年）
テーマ「GPSを活用した、新しい商品の提案」（一幸電子工業株式会社）
武田 岳さん（社会情報学部社会情報学科3年）
外間 拓海さん（社会情報学部社会情報学科3年）

同プログラムは、一般社団法人神奈川経済同友会の会員企業・団体と神奈川県内の大学とが協同し、産学連携による学生の人材育成を目的としており、企業・団体が提示する日常の経営課題の中から、学生が実践的で実効性のある解決策を研究し提案する課題解決型研究コンペティションです。事前に研究レポートを提出し、定められた期間にテーマを提示した企業に対してプレゼンテーションを行い審査を受け、2013年12月19日（木）に表彰式が行われました。

社会情報学研究科

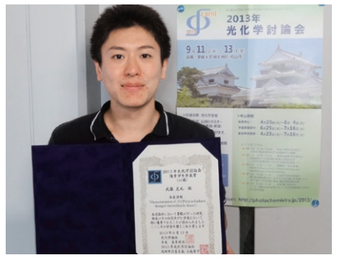
社会情報学研究科の上野 亮さんが2つの賞を受賞



2013年9月4日（水）～6日（金）に鳥取大学鳥取キャンパスで開催された、「第12回情報科学技術フォーラム（FIT）」において、社会情報学研究科の上野亮さん（博士後期課程3年・飯島泰裕教授研究室所属）が「FIT奨励賞」を受賞しました。この賞は、今回のフォーラムから設けられた賞で、一般発表のセッションごとに優秀な発表1件がその場で選ばれます。上野さんの研究は「地方自治体のFacebookページにおける投稿内容に関する考察－神奈川県相模原市・石川県金沢市のFacebookページをケーススタディとして－」。神奈川県相模原市と石川県金沢市の公式Facebookページを対象に、投稿内容に関する分析を行い、その結果から地方自治体のFacebookページにおける情報発信ツールとしての活用方法を発表しました。また、2013年9月13日（金）～15日（日）に早稲田大学で開催された「2013年社会情報学会（SSI）学会大会」においても、上野さんが2012年度学会大会で発表した「自治体公式Twitterの利用実態及び発信情報に関する考察」が、「2012年度学会大会 研究発表優秀賞」を受賞しました。

理工学研究科

理工学研究科化学コースの武藤 克也さんが2013年光化学討論会「優秀学生発表賞」を受賞



2013年9月11日（水）～13日（金）に、愛媛大学城北地区で開催された「2013年光化学討論会」で、理工学研究科化学コースの武藤克也さん（博士後期課程2年・阿部二朗教授研究室所属）の研究発表が、「優秀学生発表賞（口頭）」を受賞しました。この賞は、光化学協会が年1回開催する年会で、特に優れた研究発表を行った学生発表者に贈られるもの。今年は28名の候補者の中から4名の学生が表彰されました。武藤さんの研究発表題目は、「[2.2]パラシクロファン架橋型ビスイミダゾール二量体のフォトクロミズム」。受賞理由は、化学結合形成に関わる興味深い知見を発見したことに加え、プレゼンテーションや質疑応答が受賞にふさわしいと認められたためです。また、武藤さんはこれまでにも、「第34回光化学若手の会　優秀学生講演賞（2013年6月）」、「日本化学会第93春季年会　学生講演賞（2013年3月）」、「第23回基礎有機化学討論会　ポスター賞（2012年9月）」、「第33回光化学若手の会　ポスター賞（2012年6月）」を受賞しています。

理工学研究科

理工学研究科機械創造コースの花光 悟さんが日本複合材料学会「林学生賞」を受賞

2013年9月24日（火）・26日（木）に、鹿児島大学で開催された「日本複合材料学会 第38回複合材料シンポジウム」で、理工学研究科機械創造コースの花光悟さん（博士前期課程1年・指導教員：小笠原俊夫客員教授*）が「林学生賞」を受賞しました。この賞は、日本複合材料学会が年1回開催する「複合材料シンポジウム」において、最も優秀な研究論文発表を行った学生に贈られるものです。花光さんが受賞した研究発表は「配向カーボンナノチューブ/エポキシ樹脂複合材料積層板の力学特性評価」。現在、航空機の機体などに使用する目的で、軽量・高強度・高弾性といった特徴を持つカーボンナノチューブ（CNT）を適用した新しい複合材料の材料開発の研究が進められています。花光さんの研究は、今回新たに作製した「CNT/エポキシ複合材料積層板」が、将来の新しい軽量複合材料となり得る可能性を示しました。研究の新規性・独自性、正確性・論理性、完成度の高さとともにプレゼンテーションのまとめ方、わかりやすさ等が評価され、受賞に至りました。

＊小笠原俊夫客員教授は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）航空本部の研究者です。
（本学理工学研究科ではJAXAと連携し、連携大学院方式の教育を行っており、小笠原客員教授はその一環として本学学生への研究指導を行っています。）

社会情報学研究科

社会情報学研究科の吉田 智彦さんが「ベストプレゼンテーション特別賞」を受賞

受賞した吉田さん（左）

2013年11月30日（土）に、新潟国際情報大学新潟中央キャンパスにて開催された「情報システム学会　第9回全国大会・研究発表大会」で、社会情報学研究科社会情報学コースの吉田智彦さん（博士前期課程2年・宮川裕之教授研究室所属）が「ベストプレゼンテーション特別賞」を受賞しました。この賞は、情報システム学会が年1回開催する同大会において、実践的かつ一般化が可能な事例報告および将来の発展が期待できる研究を行った者に贈られるもの。吉田さんの研究は、「SSMによる要求分析と情報システム提案に関する報告～小規模飲食店（A店）における実践事例～」で、情報システム開発におけるステークホルダーの「思い」を抽出し、その「思い」をベースとした情報システムを提案するというものです。吉田さんの発表は、そのシステム設計や、提案をアルバイト先での現場改善に活用した実践的報告であること、今後、適用効果の分析、手法の改善提案などを加えることで、さらなる研究の深化が期待できることが評価され、受賞にふさわしいと認められました。

社会情報学部

社会情報学部の宮治 裕ゼミ4年生チームが察知人間コンテストで「準グランプリ」を受賞

2013年5月17日（金）に開催された、株式会社技術評論社・KDDI株式会社主催の「第2回察知人間コンテスト　最終決定戦」において、社会情報学部の宮治裕准教授のゼミ4年生チーム（古賀なつみさん・勅使瓦悠太さん）が準グランプリを受賞しました。このコンテストは、スマートフォンの普及に伴い、例えば実写とCG映像を合成するなどの技術で、情報を拡張するAR（Augmented Reality：拡張現実）技術をより身近なものにすべく、エンジニア・クリエイターを対象に新しいARアプリを広く募集するもの。この日行われた最終決定戦では、50点の応募の中から2回の審査を勝ち抜いた6チームが最終プレゼンテーションを行いました。準グランプリを受賞した宮治ゼミ4年生チームのアプリ「てづくりすごろく♪」は、すごろくのマス目にARを使用したアプリです。止まったマス目にカメラ付きデバイスをかざす度に、その種類に応じて点数や様々なパーティーゲームの内容が表示されます。審査員からは、「プレゼンがわかりやすくて良かった。子供向けワークショップですぐ使えるようなパッケージングができている」と高い評価を受けました。

受賞した勅使瓦さん（左）と古賀さん（右）

産官学連携シンポジウム「産業界のニーズと大学教育の進化」開催報告

特色ある優れた教育改革として2012年度より文部科学省から支援を受けている取り組みの1つ、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の中間報告として、「産業界のニーズと大学教育の進化」と題した産官学連携シンポジウムを開催しました。本事業は、本学が幹事校となり首都圏の18大学が連携して、経済団体・企業、経済産業省関東経済産業局とともに「産官学連携会議」を組織し、5つのテーマを掲げて取り組んでいます。会場には大学関係者をはじめ、官庁、協力企業などから約160名が集まりました。

シンポジウム前半では、連携外の大学における教育改善の取り組み事例が発表され、続いて連携大学での実践事例が2つ報告されました。まず、産業界のニーズに対応した技術者の育成を目指す「理工系5大学の連携事業」の発表として、PBL（Project-Based Learning：問題解決型学習）の実施と達成度評価方法が示され、効率的、効果的な実施のために、PBLのひな型の提示などが今後の課題として取り上げられました。次に、「連携による催事型インターンシップ」として、商店街と連携した催事販売の事例とその成果が報告されました。これは、現在のインターンシップにおける問題点を解決するために、学生自らが主体的に組み立てるインターンシップを目指して取り組まれたものでした。

シンポジウム後半では、企業の人事担当者などをパネリストとして迎えた討論会が行われ、産業界のニーズとは何か、大学に求められる人材育成とは何か、そして、大学教育のあるべき姿とは何かについて、現場からの貴重な意見が多く出されました。ディスカッションの中でも、企業は学生に対して、“問題を見つけて解決するための基礎力を身につける”ことを求めていることが明らかにされました。

最後に、「今こそ私たちは、“大学で学ぶことで将来の道を見出す”という考え方を学生の中に植え付けていかなければならない。社会は今どういう人材を求めているのかということを知るためにも、この事業は大きな意味があります」と、本学の仙波憲一学長が挨拶。「このような場に現役の学生がいたら、彼らの意見も聞くことができ、新たな方法が見出せるかもしれない」と、締めくくりました。

2013年9月21日（土）青山キャンパス17号館本多記念国際会議場にて

比較芸術学会発足記念講演会「言葉とイメージ―日本人の美意識―」開催報告

タイトルは「言葉とイメージ―日本人の美意識―」。高階秀爾氏の本来の研究対象である西洋文化を敢えて単純化した上で、それとの比較で日本の美の特徴を浮き彫りにすることを主旨とした講演でした。論点が多岐にわたるため、ここでは便宜上４部構成というかたちで内容を紹介します。

第1部では紀貫之による『古今和歌集』の仮名序の一節の綿密な分析がなされ、まず平仮名の特徴とその誕生、および漢字との併存の特殊性が語られたのち、詩作が一般人にも日常化した状況や、「天地をうごかし、目に見えぬ鬼神をもあはれとおもわせる」和歌の力についての考え方が西洋における「インスピレーション」（神や天上界から吹き込まれる霊感）の理解と正反対であることが指摘されました。

第2部では西洋では全く異なる存在である「絵と文字」が、日本では美しく共存してきた歴史が簡潔に語られました。この問題が講演全体の基調をなしています。

第3部の主たる考察対象は建築で、日本の伝統的建築の大きな特徴として①屋根が巨大であり、これが建築形式・様式の区分の基礎をなしていること、②屋根の微妙な反りが日本独特であること（その美学は日本刀にも共通である）、③内と外との境界領域である「軒の下」の存在、が挙げられました。その後視野はさらに広がり、日本特有の美的理念として④内と外の厳格な区別がないこと（例は市壁の欠如）、⑤直線と曲線が必ずしも対立的でないこと、さらに⑥「自然vs芸術」という二項対立的な捉え方がなく、芸術の美が自然と一体化していることが指摘されました。

第4部では書と絵が併存している、その点だけでも日本的な存在である江戸時代のさまざまな和歌巻や色紙を例にして、西洋的なレイアウトの規則性をしばしば超越している「日本的デザイン」の独創性の豊富さと水準の高さが語られました。

「余白の美」について語られるはずだった第5部が時間不足でカットされたのが唯一の心残りでしたが、一貫して非常に充実した内容の講演会でした。話題が広範囲に及ぶものだったため、とくに和歌や書に詳しくない学生にとっても、直截（ちょくせつ）で明快な指摘の多くが記憶に深く刻まれたに違いありません。

2013年11月28日（木）青山キャンパス17号館本多記念国際会議場にて

（文学部比較芸術学科教授　髙橋 達史　記）

高階 秀爾（たかしな しゅうじ）**氏**
1932年生まれ。東京大学・同大学院、パリ大学美術研究所で西洋美術史を専攻。国立西洋美術館学芸員、東京大学助教授・教授を経て、現在東京大学名誉教授、大原美術館館長、西洋美術振興財団理事長。2012年文化勲章受章。

経済研究所講演会「カーネギーメロン大学ベネット・マッカラム教授講演会」開催報告

青山学院大学経済研究所Public Choiceプロジェクト（経済学部教授：中村まづる、西川雅史、平澤典男）では、米国からカーネギーメロン大学のベネット・マッカラム教授をお招きし、講演会を開催しました。

マッカラム教授は、アベノミクスで注目されているインフレターゲット論の世界的権威で、日本銀行が取り組んでいる量的緩和政策の理論的根拠となっている「マッカラム・ルール」にその名を冠された著名な経済学者です。日本の金融政策についても、2003年～2010年にわたって日本銀行金融経済研究所名誉顧問として、デフレ対策への提言をなさってきました。

マッカラム・ルールは、安定的な経済成長率の目標値を達成するために必要な通貨発行量をルール化し、中央銀行の裁量や金融政策への政治介入を排除する政策運営を具体化したものです。金融政策のルールとしては、インフレ率や、望ましいGDPと現実のGDPとのギャップを政策変数として適正な金利水準を求める、テイラー・ルールも有名です。

講演会は、“Alternative Policy Rules and Japanese Monetary Policy, 1995-2013”と題し、日本のデフレ脱却に向けた金融政策の評価が中心となりました。オイルショックやバブル期にも遡った金融データを用いて、日本銀行はいずれかのルールに基づく政策運営を実施すべきであったことが指摘されました。

ただし、デフレと実質ゼロ金利の続く近年の日本経済では、テイラー・ルールによって導かれる望ましい金利水準はマイナスの値になってしまうので実現は困難です。そこで、マッカラム・ルールで示された通貨供給量を達成するための量的緩和政策が支持されています。

さらに、政策変数として為替レートが導かれることも紹介され、デフレの下では、金融緩和と為替レート引下げのため、日本銀行の外貨建債券購入が提言されました。

講演会は平日の午後にもかかわらず、学内外の金融専門家および大学院生の参加により、会場の6号館第4会議室は満席となり、テーマへの関心の高さがうかがわれました。

2013年10月25日（金）青山キャンパス6号館第4会議室にて

（経済学部経済学科教授　中村 まづる　記）

ベネット・マッカラム 氏
1935年生まれ。カーネギーメロン大学教授。ライス大学にて博士号取得後、バージニア大学教授を経て1980年より現職。他に、連邦準備銀行(FRB)、全米経済研究所（NBER）、国際通貨基金（IMF）研究員、日本銀行金融経済研究所名誉顧問などを歴任。

経営学部グローバル・ビジネス研究所講演会「サンリオのグローバル戦略」開催報告

「では次の問題です、キティちゃん一家が住んでいるのは？」司会者の声とともに、多くの学生の手があがり、誰かが正解するごとに、青山キャンパスにある本多記念国際会議場は歓声でわきました。

司会をするのは、ジーンズにTシャツ、そして黒いジャケットというカジュアルな姿の男性。ワイヤレスマイクを片手に会場中を歩き回るその姿だけを見たならば、彼が上場企業の役員だと気づかない人もいるでしょう。鳩山玲人氏はそんな気さくな男性です。

2000年代前半から中頃にかけて、株式会社サンリオの業績は決して褒められたものではありませんでした。ところが同社は、現在、きわめて高い収益性を誇るまでに回復しました。

意外と知られていませんが、サンリオは日本でも指折りのグローバル企業です。ZARA や H&M といった世界中に店舗を持つ企業に対してライセンス（キャラクターの使用許諾）を与えることで、利益の大半を海外市場で生み出しています。かつては国内市場中心型のビジネスを展開し、収益性の低下に苦しんでいた同社に、このような新しいビジネス・システムを導入したのが、本学のOBである鳩山氏でした。

それまでのサンリオの海外事業は、自社商品専門店での販売が中心だったため、知名度は高いのに販売場所が限定されていました。ライセンス中心にシフトすることにより、販売される場所がいっきに増え、露出が拡大しました。また米国では、一般の人々が手軽に入手できるよう、大手小売業者へ商品供給を行う企業とライセンス契約しました。このようにしてサンリオ・キャラクターのグローバル化は急速に実現したのです。講演会ではそのプロセスについて、分かりやすく説明が行われました。

カジュアルな雰囲気の中、学生たちからの質問も盛んでした。また経営学部マーケティング学科の学生が多いこともあり、内容的にも専門的なものが見受けられ、質問は講演後も延々と続きました。

東京本社で行われる取締役会の直前であったにもかかわらず、最後までひとつひとつ質問に答えてくれる同氏の姿は、心やさしい先輩として私たちの心に刻まれました。

2013年11月14日（木）青山キャンパス17号館本多記念国際会議場にて

（経営学部マーケティング学科教授　久保田 進彦　記）

鳩山 玲人（はとやま れひと）**氏**
1974年生まれ。1997年青山学院大学国際政治経済学部卒業後、複数の企業でメディア・コンテンツビジネスを経験。2008年ハーバードビジネススクールにてMBA取得後、同年、株式会社サンリオに入社し、現在同社常務取締役。サンフランシスコ在住。

アディダス ジャパン株式会社とパートナーシップ契約を締結

2013年11月14日(木)、本学はマルチスポーツブランドのアディダスジャパン株式会社(本社:東京都港区六本木、代表取締役:ポール・ハーディスティ)とスポーツ分野におけるパートナーシップ契約を締結しました。本契約は、スポーツ用品の共同企画・開発をはじめ、アディダスがグローバル企業として教育現場のサポートを行い、国際的な場で活躍できる人材の育成を目指します。「主体的に教育活動に参加する自発性を持ち、応用力・適応力に富んだ行動ができる学生の育成を目指す」青山学院大学と、次世代で活躍する若者たちをサポートしていくアディダスの理念とが一致し、今回の契約締結の合意にいたりました。

本パートナーシップの目的は、①スポーツに関する教育研究、②スポーツ選手の育成、③スポーツ技術・医科学の向上、④スポーツを通じた国際交流・地域貢献・地域活性化等、⑤スポーツ文化の振興等の実現であり、そのために相互の協力、提携、交流を通してスポーツの発展に貢献することです。

主な共同実施事業は、「スポーツ及びスポーツ用品に係わる歴史、哲学、法律などの研究」「スポーツ用品の製造、販売、マーケティング手法の研究」「スポーツを通じた国際交流」など、11項目に及び、今後の具体的な活動として、2014年度より経営学部マーケティング学科の授業において、アディダス ジャパン株式会社からの講師派遣を予定しています。また、ライセンス製品の共同企画、開発に取り組み、販売収益の一部を学生のスポーツ活動等に還元するなど、効率的な教育活動サポートを行っていきます。

調印後に握手を交わすアディダス ジャパン株式会社 ハーディスティ社長(左)と仙波学長(右)

2013年度「Happyくらす作品コンクール」審査結果

本誌68号(2013年7月発行)でお伝えした「Happyくらす作品コンクール」。第2回となる今回も、学生の皆さんの講義の思い出、心に響いたクラス、自分を変えた授業、目の覚めた講義、元気の出た授業など、講義を通して得た発見や感動、体験、成長等の良い思い出を「心に残る授業」として募集しました。多くのご応募をいただき、いずれも力作揃いで苦慮しましたが、次のとおり、最優秀賞1作品、優秀賞1作品、佳作6作品が選ばれました。受賞者の皆さん、おめでとうございます。

最優秀賞	塩田 伸一さん	大学院総合文化政策学研究科2年
優 秀 賞	鈴木 梨歩さん	文学部比較芸術学科2年
佳　　作	田中 優衣さん	文学部日本文学科3年
佳　　作	福岡 彩さん	文学部日本文学科3年
佳　　作	張 美善さん	経営学部経営学科1年
佳　　作	中澤 修平さん	経営学部経営学科4年
佳　　作	島田 大地さん	総合文化政策学部総合文化政策学科3年
佳　　作	森 素子さん	専門職大学院国際マネジメント研究科1年

最優秀賞の塩田伸一さんの作品「心に残る授業」は、下記URLもしくは本学ウェブサイトの「大学案内」―「青山学院大学の取り組み」―「FD活動」のページでご覧いただくことができます。
http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/info/detail_03.html

今回の全入賞作品を収めた冊子「Happyくらす作品コンクール入賞作品集」を青山キャンパス17号館2Fスチューデントセンター前と相模原キャンパスB棟1Fスチューデントセンター前で配布しています。

第2回「情報の探索と表現」コンテスト　審査結果

本学と青山学院女子短期大学の図書館が主催した第2回「情報の探索と表現」コンテスト。「日本の知らない世界、世界の知らない日本」をテーマとして、オンラインデータベース[AFP World Academic Archive]に収蔵されている画像コンテンツの中からテーマに即した画像を検索し、「雑誌の記事」を作るというもので、2013年9月21日(土)～10月8日(火)に募集、総数34件の応募がありました。

AFP通信記者などのプロもまじえた審査員による選考の結果、大学からは12点の受賞作品が選ばれ、12月4日(水)に青山キャンパスの大学図書館本館で、12月6日(金)に相模原キャンパスの万代記念図書館で表彰式が行われました。

なお、10月29日(火)～31日(木)にパシフィコ横浜で開催された「第15回図書館総合展/学術情報オープンサミット」ポスターセッションにコンテスト概要と受賞作品を掲載したポスターを出展した結果、来場者による投票で昨年の「優秀賞」に続き「最優秀賞」を受賞しました。

グランプリ
横尾 涼介さん　経営学部マーケティング学科3年
「South Sudan-激動の南スーダンにて-」
■英語雑誌記事
最優秀賞
髙橋 奈々さん　国際政治経済学部国際経済学科4年
「SCRAWL on Wall Awes the LAW」
優秀賞(大学図書館長賞)
アベグナクラダナ クサル インダジットさん
経済学部経済学科1年
「Afghanistan Finds a Silver Lining」
■英語見出し
優秀賞(大学図書館長賞)
金山 栞さん　経営学部マーケティング学科3年
「Prime Minister Abe, are you ready?」
■日本語雑誌記事
優秀賞(大学図書館長賞)
髙際 紋歌さん　国際政治経済学部国際経済学科2年　「意外とアグレッシブ?オランダの自転車事情!!」
優秀賞(万代記念図書館長賞)
金城 弘幸さん　理工学部物理・数理学科3年　「エデュケーション・ファースト」
この他の受賞作品については図書館HPでお知らせしています。

躍動!青山スポーツ　2013年9月から2014年1月にかけての青山スポーツの活躍をお伝えします。

山岳部 がヒマラヤの未踏峰アウトライアー東峰に世界初登頂

2013年10月11日(金)、山岳部の本田優城さん(国際政治経済学部4年)とOBの萩原浩司さん(本学山岳部OB会会長)、村上正幸さん(本学山岳部監督)の3名が、ヒマラヤの未踏峰アウトライアー(現地名:Janak　Chuli)東峰(7,035m)の初登頂に成功しました。アウトライアーの主峰は、2006年にスロベニアのチームが登頂していますが、東峰は未踏のまま残されていました。山岳部では創部85周年を記念し、2010年にもアウトライアー東峰に挑戦しましたが、標高6,800m付近で撤退。再挑戦を決め、9月12日(木)から約1ヵ月かけて初登頂を果たしました。

陸上競技部(長距離ブロック)男子 が大学駅伝3大会で大きく健闘

出雲駅伝 5位

2013年10月14日(月・祝)に開催された「第25回出雲全日本大学選抜駅伝競走」で、陸上競技部(長距離ブロック)男子はトップから2分58秒差の2時間12分9秒の5位でゴールしました。前回大会で優勝している本学は、6名の出場選手のうち4名が出雲駅伝初出場というフレッシュなメンバーで挑戦。初出場の選手が多い状況での5位という結果からは、中心選手だけでなくチーム全体の力があがってきていることがうかがえました。

全日本大学駅伝 総合6位

2013年11月3日(日・祝)に開催された「第45回全日本大学駅伝対校選手権大会」では、5時間22分9秒で総合6位となり、初の次回大会へのシード権を獲得しました。今大会では、第38回高島平・日刊スポーツ・ロードレース大会での上位入賞メンバーを中心にオーダーが組まれ、8名のうち7名が全日本大学駅伝初出場。出雲駅伝同様フレッシュなメンバーで挑みシード権を獲得できたことは、チームの総合力が上がってきた証拠でもあります。

箱根駅伝 総合5位

2014年1月2日(木)・3日(金)に開催された「第90回東京箱根間往復大学駅伝競走」では、第88回に続き2回目となる最高順位タイの総合5位(総合タイム:11時間8分53秒)の成績を収めました。往路は5時間35分4秒(本学史上往路新記録)、トップから7分51秒差の5位、復路は5時間33分49秒の6位でした。次回のシード権を獲得したことにより、2014年10月に開催される「第26回出雲全日本大学選抜駅伝競走」への出場権も獲得しました。

陸上競技部(短距離ブロック)女子 が複数の競技大会で健闘

2013年9月6日(金)～8日(日)に行われた「天皇賜盃第82回日本学生陸上競技対校選手権大会」で、陸上競技部(短距離ブロック)女子の鳥原早貴選手(教育人間科学部4年)が「女子400m」で優勝。また、中村孝美選手(教育人間科学部3年)、土岐遥菜選手(社会情報学部1年)、梅元里菜選手(経営学部3年)、鳥原選手のリレーチームが「女子4×400mリレー」で優勝を果たしました。

また、2013年10月25日(金)～27日(日)の「第97回日本陸上競技選手権リレー競技大会」では、島田沙絵選手(教育人間科学部1年)、土岐選手、中村選手、藤森安奈選手(教育人間科学部1年)が「女子4×100mリレー」で4位に入賞。同大会・同種目での3年連続入賞を果たしました。

バレーボール部 女子 が秋季関東大学女子1部リーグ戦で2連覇を達成

2013年9月1日(日)～10月27日(日)に開催された「2013年度 秋季関東大学女子1部バレーボールリーグ戦」において、バレーボール部女子が2連覇を果たし、春季同リーグ戦の勝利と合わせて二冠を達成しました。なお、同大会で伊東千寿留選手(文学部4年)が「最優秀選手賞」に選ばれるなど、4選手が表彰されました。

また、2013年12月3日(火)～7日(土)に開催された「第60回 秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会」においては、接戦の末、準優勝の成績を収めました。同大会では、伊東選手が敢闘選手賞、今村優香選手(文学部2年)がベストスコアラー賞に選ばれました。

誌上公開講座069

教室のみならず、屋外でも実習を展開

Aogaku Lecture 13

ワークショップデザインの実践的研究

苅宿 俊文
社会情報学部社会情報学科 教授

学習には、知識を獲得していく学習と、意味をつくっていく学習があります。前者はいわゆる九九を覚えるように知識を身につけていくもの。私の専門は後者で、「協働的な学習」である、学習環境のデザインや学習コミュニティをつくっていくプロセスを研究するものです。その協働的学習方法のひとつとして、ワークショップがあります。そこで展開されているものがどのような構造をしているのかを調べ、より良い形でつくりあげることを目的に研究活動をしています。ゼミナール（ゼミ）のテーマは「ワークショップデザインの実践的研究」です。ゼミの学生たちは、研究協力校の小学校でワークショップを行っており、2013年度は、相模原市の桜台小学校で３年生の授業を分析するというプロジェクトに取り組んでいます。これらの実践を通して、協働的な活動がどのようなコミュニケーション構造になっているのかを分析研究しています。

例えば、子どもや学生たちが協働して何か作品をつくるとき、「こういうものをつくりたい」という自分のアイデアを仲間にわかってもらおうという意志を持って伝えなければならないし、仲間もそれをわかろうとしなければ理解はできません。コミュニケーションがきちんととれていれば、意思の疎通ができるのですが、ただディベートするだけでは何も伝わらない。ロジカルに伝えるというのはどのようなことなのか、話し合いがうまくまとまるか否かのポイントを、会話の流れから読み取り、分析し、相互作用を理解する。これが本ゼミでの研究の本質です。

社会情報学部には、実に幅広い学びが揃っています。本ゼミのワークショップデザインは、「社会・人間コース」に位置づけられますが、手法としてメディアツールを使えば、「人間・情報コース」に属するともいえるでしょう。便宜的に専門性が分かれて示されるのは大学までです。社会に出れば、異なる分野が重なり合っていろいろな現象が起こっていることに気づくでしょう。大切なのは、興味を持つこと。そして考えることです。小学校の授業を分析している学生たちは、必ずしも教師を目指しているわけではありません。それなのになぜ学校の現場を研究するのか疑問に思う方もいるでしょう。それに対してゼミの学生は、「学校教育は社会全体が関心を持ち、改善点をみんなの問題として考えなくてはならないもの。先生や教育の専門家ではない第三者の自分たちが考えることにこそ意味がある」と答えられるまでになっている。そこに彼らの成長が見られます。

私は常々、学生たちに「わかりやすい自分をつくれ」と言っています。人に理解してもらうことは大事なことですが、果たして人にわかってもらえる自分なのか。人には、他人の立場に立って客観的に自分を見ることが必要です。机上の勉強だけでは理解できないことをワークショップの実践によって学び、何のために取り組んでいるのか、自分たちはどのようなプロセスを築き、そこにどのような意味を持たせようとしているのか、相手にわかってもらえるように「考えて、話す」。それが、コミュニケーション能力の向上につながると考えています。

苅宿ゼミ学生
鶴見 梓さん
社会情報学部社会情報学科4年

社会情報演習の授業で苅宿先生の楽しいお人柄を知り、苅宿ゼミを選択しました。ゼミでは小学校の授業を分析するプロジェクトに参加しています。最初は何をすれば良いのかわかりませんでしたが、現場で授業を録音することから始め、それを聞いてみると、担任の先生の話し方、声の調子、どのような内容に児童が反応しているかなど、さまざまなチェックポイントに気づきました。プロジェクトを通して、自らテーマを見出すことで、目標達成に向かって実行する力が身についていることを実感しています。児童たちの思わぬ行動にも接し、計画通りに進まないことに柔軟に対応する力や適応力も現場で少しずつ培うことができました。

Information

2013年度 青山学院学術褒賞

「青山学院学術褒賞」は、専門分野の研究において学術上顕著な業績を発表した青山学院の専任教員に授与される賞です。2013年度は以下の7名が受賞しました。

■文学部英米文学科　ROBINSON,P.J. 教授
The Routledge Encyclopedia of Second Language Acquisition
（Routledge 2013）（『ラトレッジ版 第二言語習得百科事典』）

■経済学部経済学科　永山 のどか准教授
『ドイツ住宅問題の社会経済史的研究-福祉国家と非営利住宅建設』
（日本経済評論社 2012.12）

■経営学部マーケティング学科　加藤 篤史教授
『経済発展論』（中央経済社 2012.9）

■国際政治経済学部国際経済学科　友原 章典教授
『幸福の経済学』（創成社 2013.4）

■国際政治経済学部国際コミュニケーション学科　末田 清子教授
『多面的アイデンティティの調整とフェイス（面子）』
（ナカニシヤ出版 2012.3）

■理工学部化学・生命科学科　阿部 二朗教授
革新的光応答性物質の開発に関する研究

■会計プロフェッション研究科　唐沢 昌敬教授
『中国哲学と現代科学-気と理に導かれた「正しい経営」』
（慶應義塾大学出版会 2013.5）

卒業・進級および成績に関する日程（学部）

今年度末から2014年度初頭にかけての主な日程をお知らせします。詳細は学生ポータルを確認するようにしてください。

日付	内容	備考
3月7日（金）10時30分	卒業決定者発表	
3月7日（金）13時30分	進級決定者発表	進級条件が設定されている学年のみ
	卒業見込可能者発表	理工学部・社会情報学部3年次生のみ
3月7日（金）10時30分～	成績通知書開示（４年次生）	・卒業決定者は3月25日（火）まで閲覧できます。 ・学外PCから閲覧する場合は、あらかじめ学内でSecureMatrixパスワードの登録を済ませておく必要があります。詳細は、学生ポータルメニュー「学外から成績通知書を閲覧する手順」を参照してください。この手続きが完了していない場合、学外から閲覧できませんので、注意してください。
3月7日（金）13時30分～	成績通知書開示（１～３年次生）	
3月7日（金）	保証人宛成績通知書発送	卒業決定者を除きます。
3月25日（火）	学位授与式（卒業式）	
4月2日（水）	履修登録開始	所属キャンパス及び第一部／第二部により、登録締切日および締切時間が異なります。

※大学院の日程は上記に準じます。ただし専門職大学院の日程は異なりますので、学生ポータルを参照してください。

2013年度 学位授与式・卒業礼拝

2013年度学部卒業生および大学院修了生を対象として、下記の通り「学位授与式」、「卒業礼拝」を挙行します。所属の学部・研究科によって時間が異なりますのでご注意ください。3月の卒業発表後、保証人の方（専門職大学院は除く）宛にご案内状を郵送いたします。

【学　部】　2014年3月25日（火）　青山学院記念館（大学体育館）
（午前の部）　10時30分 開式（9時30分開場）
対象学部：経済学部、経済学部第二部、
法学部、経営学部、経営学部第二部、
国際政治経済学部
（午後の部）　13時30分 開式（12時45分開場）
対象学部：文学部、文学部第二部、教育人間科学部、
総合文化政策学部、理工学部、社会情報学部

【大学院】　2014年3月25日（火）　青山学院講堂
16時 開式（15時15分開場）
対象研究科：全研究科

【卒業礼拝】　2014年3月25日（火）　ガウチャー記念礼拝堂
9時～10時
説教：伊藤 悟 大学宗教部長　※参加自由

春期休業期間中の窓口案内　対象期間 2014年2月4日（火）～3月31日（月）

○ 詳細は本学ウェブサイトでご確認ください。
○ 下記の日程は入学試験日のため、青山キャンパスへの入構が制限されます。
本学学生は西門・東門からの入構とし、入構時に警備員に、用件を告げ、認められる事由の場合のみ学生証を提示して入構することができます。
2月6日（木）、2月7日（金）、2月10日（月）、2月11日（火）、2月13日（木）
2月14日（金）、2月15日（土）、2月18日（火）、2月19日（水）、2月21日（金）

春期休業期間中の窓口案内の詳細は → 本学ウェブサイトをご覧ください。

http://www.aoyama.ac.jp/life/clericalwork/

Information

2014年度 学事暦（学部）

年度初頭のオリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断は各学部・学科ごとに行います。
日時・場所の詳細は学生ポータルにて配信しますので、必ず確認してください。

前期

4/1（火）	入学式
4/1（火）～5（土）	オリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断＊
4/7（月）	前期授業開始
4/7（月）～11（金）	新入生歓迎礼拝（青山・相模原キャンパス）
4/15（火）	相模原キャンパス所属学生 履修登録最終日
4/16（水）	青山キャンパス所属学生 履修登録最終日
4/21（月）	イースター礼拝（青山・相模原キャンパス）
4/29（火）	授業実施日（昭和の日）
5/3（土）	授業実施日（憲法記念日）
5/23（金）	ジョン・ウェスレー回心記念日礼拝（青山・相模原キャンパス）
5/26（月）～ 30（金）	チャペル・ウィーク（前期）
6/9（月）	ペンテコステ礼拝（青山・相模原キャンパス）
6/14（土）	アドバイザー・グループ・デー（青山・相模原キャンパスとも休講）
7/21（月）	授業実施日（海の日）
7/23（水）～25（金）	補講日（第一部、第二部とも）
7/28（月）～8/4（月）	前期定期試験期間
8/4（月）～6（水）	清里サマー・カレッジ
8/5（火）～9/18（木）	夏期休業期間
9/27（土）	9月学位授与式

後期

9/19（金）	後期授業開始
10/11（土）～12（日）	相模原祭期間（11(土)は相模原キャンパスのみ休講）
10/13（月）	授業実施日（体育の日）
10/20（月）～24（金）	チャペル・ウィーク（後期）
10/31（金）～11/2（日）	青山祭期間（青山・相模原キャンパスとも休講）
11/14(金)	創立記念礼拝（青山・相模原キャンパス）
11/16（日）	創立記念日
11/28（金）	クリスマス・ツリー点火祭
12/16（火）	クリスマス礼拝（青山キャンパス）
12/18（木）	クリスマス礼拝（相模原キャンパス）
12/23（火）	授業実施日（天皇誕生日）
12/24（水）～2015年1/3（土）	冬期休業期間
1/5（月）	後期授業再開
1/16（金）～18（日）	大学入試センター試験および同準備日 （16（金）、17（土）は実施キャンパスのみ休講）
1/20（火）～22（木）	補講日（青山キャンパス）
1/20（火）～23（金）	補講日（相模原キャンパス）
1/27（火）～2/3（火）	後期定期試験期間
3/25（水）	学位授与式 卒業礼拝

※ 青字は、宗教行事です。
※ 大学院・専門職大学院の学事暦は一部異なります。本学ウェブサイトや『大学院要項』等を参照してください。
＊ 青山キャンパス4/1（火）～5（土）、相模原キャンパス4/2（水）～5（土）

進路・就職関係のお知らせ

1～３月の進路支援行事

青山キャンパス

行事名	対象学年	日　程
公務員試験対策学内プレ講座	公務員志望者	1月7日
学内企業説明会	学部3年生・院1年生	1月6日～10日
卒業生による模擬面接	学部3年生・院1年生	1月～2月
学内企業選考会	学部4年生・院2年生	2月5日
学内企業説明会	学部3年生・院1年生	3月6日～7日
公務員試験対策学内プレ講座	公務員志望者	3月12日～20日
4年生個別相談会	学部4年生・院2年生	1月～3月の月・金曜日

相模原キャンパス

行事名	対象学年	日　程
最終確認SPI模擬テスト	学部3年生・院1年生	1月17日
学内模擬グループディスカッション	学部3年生・院1年生	1月18日
3年生学内企業説明会（推薦企業）	学部3年生・院1年生	2月4日～7日

各種行事は追加・変更の可能性がありますので、詳細は「Web Ash」等にて必ず確認してください。

青山キャンパスの個別相談について

進路・就職センター（青山キャンパス）では、待ち時間を少なくするため、平日12：40以降の個別相談を当日予約制としています。相談希望当日に、事務室受付にて予約してください。予約は9：30から受け付けます。（電話での予約および予約状況の照会は行いません。）
なお、午前の部（月～金/9：30～11：30、土/9：30～12：00）は予約不要です。

予約ラウンド（月～金）
相談開始時刻（相談時間は、原則30分です）

予約①	12：40～
予約②	13：30～
予約③	14：20～
予約④	15：10～
予約⑤	16：00～
月・水・金のみ　予約⑥	16：50～
月・水・金のみ　予約⑦	17：40～

○相談開始時刻を10分過ぎても来室しない場合には、キャンセル待ちの方を優先とします。
○相談員の指名は、卒業年次生（学部4年生、大学院2年生）のみ可能です。

進路・就職課（相模原キャンパス）での個別相談は開室時間中随時受け付けます。

卒業・修了の決まった皆さんへ　卒業・修了後の進路報告について

学長　仙波 憲一 ／ 就職部長　懸田 豊

青山学院大学では、皆さんに卒業・修了後の進路を報告していただいています。就職、進学、現職の継続、留学、各種試験受験準備などの報告を、卒業・修了の決定した学部4年生と満期退学を含む修了予定の大学院生全員に提出していただきます。

報告いただいた内容は、進路状況のデータをまとめた「卒業生進路状況報告書」として学内で利用されます。個人の氏名や就職先が学外に公表されることは決してありません。また、官公庁などへの統計資料としても必要となりますので、必ず報告してください。

民間企業や公務員・教員などに内定された方には、「入社試験報告書」を提出していただいております。この報告書は、後輩の就職活動に大変役立っておりますので、併せて提出をお願いいたします。

皆さんのこれからの活躍を、こころからお祈りいたします。

進路届の提出先　青山キャンパス…Web Ashで入力、進路・就職センターへ「進路届」を提出　**相模原キャンパス**…Web Ashで入力、相模原事務部進路・就職課へ「進路届」を提出

2014年度 学費納付のご案内（学部・大学院）

2014年度在学生の学費（授業料、在籍基本料、施設設備料、教育活動料および諸会費、学会費）は下記のとおりです。前期・後期とも期限に遅れないように納付してください。

納付のスケジュール

振込依頼書発送　4/11（金）
前期・前後期一括分学費納入期限　4/30（水）
後期分学費納入期限　9/30（火）

納付にあたって

■振込依頼書は、前期分・後期分・前後期分一括納入分の3種類を送付します。教職課程・諸資格課程料の加算などによって後期分の納入金額が変更となる場合を除き、改めて送付しませんので、4月に送付する振込依頼書を保管の上、振込手続きをお願いいたします。
■振込依頼書は、申し出がない限り、原則として保証人宛に送付します。学生本人宛に送付先変更を希望する場合は、学生生活部学費・奨学金課（青山キャンパス）・学生生活課（相模原キャンパス）に「学費振込用紙送付先変更届」を提出してください。
■入金確認のため、大学より送付する振込依頼書を用いて、金融機関窓口で納付してください。ただし、ATM・インターネットバンキングの利用を希望される場合は、同封の案内文に記載されている注意書きに従って手続きしてください。なお、振込手続の際、公的機関発行の身分証明書等の提示が必要となる場合があります。詳細は各金融機関窓口にお尋ねください。
■最終年次において留年した場合、履修登録単位数によって学費が異なります。履修登録後に学費を算出するため、振込依頼書の発送および納入期限は下表のとおり予定しております。

	前　期		後　期	
	発送予定	納入期限	発送予定	納入期限
学 部 生	5/19（月）	6/2（月）	10/14（火）	11/7（金）
大学院生	5/26（月）	6/10（火）	10/24（金）	11/7（金）

■本学では、銀行と特別に提携した有利な条件の「教育ローン」があります。詳細は、本誌第71号（3月下旬発行予定）に掲載します。

相談・問い合わせ先

各種申請は、在学生の方が直接窓口へ来るようにしてください。個人情報取り扱いなどの関係上、電話では承れません。春期休業期間中（2/4～3/31）の窓口開室日時は本学ウェブサイトをご覧ください。

【学部】

① 保証人住所の変更 在学生住所の変更	青山キャンパス 相模原キャンパス	学生生活部 学生生活課（03-3409-7835） 学生生活課（042-759-6004）
② 学費の延納 振込依頼書の 送付先変更・再発行	青山キャンパス 相模原キャンパス	学生生活部 学費・奨学金課（03-3409-7945） 学生生活課（042-759-6004）
③ 休学・退学	青山キャンパス 相模原キャンパス	学務部 教務課（03-3409-7830） 学務課（042-759-6003）
④ 振込手続、学費一覧表	財務部 資金課（03-3409-6479）	

【大学院】

① 保証人住所の変更 在学生住所の変更	青山キャンパス 相模原キャンパス	学生生活部 学生生活課（03-3409-7835） 学生生活課（042-759-6004）
② 学費の延納 振込依頼書の 送付先変更・再発行	青山キャンパス 相模原キャンパス	学生生活部 学費・奨学金課（03-3409-7945） 学生生活課（042-759-6004）
③ 休学・退学	青山キャンパス 相模原キャンパス	**大学院生**　学務部教務課（03-3409-7830） **専門職大学院生** 学務部専門職大学院教務課（03-3409-8025） 学務課（042-759-6003）
④ 振込手続、学費一覧表	財務部 資金課（03-3409-6479）	

【学部】2014年度 学費一覧表（入学年度別）

単位：円

年度 ／ 学部・学科	2013年度入学生（新2年生）		2012年度入学生（新3年生）		2011年度入学生（新4年生）	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
英米文学科	661,700	391,500	661,700	391,500	622,700	391,500
フランス文学科	663,000	391,500	663,000	391,500	624,000	391,500
日本文学科	662,500	391,500	662,500	391,500	623,500	391,500
史学科	673,500	391,500	673,500	391,500	634,500	391,500
比較芸術学科	673,500	391,500	673,500	391,500		
教育学科	667,500	391,500	667,500	391,500	628,500	391,500
心理学科	694,000	391,500	694,000	391,500	655,000	391,500
経済学部	673,500	391,500	673,500	391,500	634,500	391,500
法学部	674,500	391,500	674,500	391,500	635,500	391,500
経営学部	674,500	391,500	674,500	391,500	635,500	391,500
国際政治経済学部	684,500	391,500	684,500	391,500	645,500	391,500
総合文化政策学部	694,500	391,500	694,500	391,500	655,500	391,500
理工学部	982,500	565,500	982,500	565,500	955,500	565,500
社会情報学部	836,500	478,500	836,500	478,500	803,500	478,500

※休学・留年・編入学・転部・転学部・転学科・再入学等をした場合の学費は異なる場合があります。

【大学院】2014年度 学費一覧表（入学年度別）

単位：円

年度 ／ 研究科・専攻		2014年度入学生（新入生）		2013年度入学生（新2年生）	
		前期	後期	前期	後期
英米文学専攻（博士前期・後期）		627,700	257,500	322,700	257,500
フランス文学・語学専攻（博士前期・後期）		629,000	257,500	324,000	257,500
日本文学・日本語専攻（博士前期・後期）		628,500	257,500	323,500	257,500
史学専攻（博士前期・後期）		629,500	257,500	324,500	257,500
比較芸術学専攻（博士前期・後期）		629,500	257,500	324,500	257,500
教育学専攻（博士前期・後期）		628,500	257,500	323,500	257,500
心理学専攻（博士前期・後期）		666,000	257,500	361,000	257,500
経済学研究科（博士前期・後期）		645,500	257,500	340,500	257,500
私法専攻・公法専攻（博士前期・後期）		630,500	257,500	325,500	257,500
ビジネス法務専攻（修士2年制・博士後期）		720,500	257,500	415,500	257,500
経営学研究科（博士前期・後期）		646,500	257,500	341,500	257,500
国際政治経済学研究科（修士・博士後期）		770,500	257,500	465,500	257,500
総合文化政策学研究科	（修士2年制）	770,500	257,500	465,500	257,500
	（一貫制博士）	670,500	257,500	365,500	257,500
理工学研究科	（博士前期）	865,000	373,000	560,000	373,000
	（博士後期）	779,500	257,500	474,500	257,500
社会情報学研究科	（博士前期）	803,000	315,000	498,000	315,000
	（博士後期）	745,500	257,500	440,500	257,500
国際マネジメント研究科	（専門職）	991,000	378,000	656,000	378,000
	（一貫制博士）	770,500	257,500	465,500	257,500
法務研究科（専門職）		1,013,000	500,000	708,000	500,000
会計プロフェッション研究科	（専門職）	1,113,000	600,000	808,000	600,000
	（博士後期）	700,500	257,500	395,500	257,500

※一部の研究科・専攻では3年制を実施していますが、本欄では2年制の学費を掲載しています。

Information

青山学院募金サイトを新設いたしました!

青山学院エバーグリーン募金では「維持協力会募金」と「奨学金募金」を募集しております。

このたび青山学院募金サイトを新設いたしました。募金サイトではクレジットカード、コンビニ、ペイジー決済での寄付ができるようになり、毎月千円からの寄付も可能です。メンバー登録をしていただきますと、マイページより青山学院にいただいた寄付の内容・履歴がいつでも確認でき、また新たにご支援いただく際にもお手続きが簡単にできるようになります。青山学院エバーグリーン募金にご支援をお願い申し上げます。

青山学院 募金　検索

青山学院
エバーグリーン募金
問い合わせ先

青山学院募金事業局(間島記念館2階)
TEL:03-3409-6208　FAX:03-3409-3890
MAIL:bokin@aoyamagakuin.jp
http://www.aoyamagakuin.jp/support/index.html

青山サポーター募金(スポーツ振興資金・ボランティア活動支援募金)

本学は、教育研究の充実とスポーツやボランティア活動等の活性化を通じて、「人と痛みを分かち合い、人種、性別、国籍、宗教を問わず積極的に助け合いの行動を起こす"青山らしい人材"」を育成することが使命であると考えております。

そこでこのたび、青山学院大学のスポーツ振興・ボランティア活動など、主に学生の各種活動の支援を目的とした募金として、『青山サポーター募金』を行っております。募金開始にあたりご支援をお考えの皆様のご負担を軽減できるよう、Web決済システム(クレジットカード決済、インターネットバンキング決済(ペイジー))を導入しています。

ぜひ、未来ある学生へのご支援をご検討いただくとともに、Web決済システムをご活用いただきたくよろしくお願い申し上げます。

青山サポーター募金　検索

青山サポーター募金
問い合わせ先

青山学院大学
政策・企画部　政策・企画課
TEL:03-3409-9612
Mail:PG-agu_supporter@aoyamagakuin.jp
http://kifu.aoyama.ac.jp/(スマートフォン対応)

Club & Circle 20 ラグビー部

大学選手権出場を目指して日々努力しています。

ラグビー部は創部90年の伝統を誇る歴史ある部です。男子選手83名、女子マネージャー・トレーナー12名の総勢95名で活動しています。

2013年度は、関東大学春季大会Cグループで2位、関東大学対抗戦Aグループで同率5位という成績でした。その中で特に関東大学対抗戦で慶應義塾大学に勝利した試合は、これまでの活動の中で最も心に残る試合になりました。「打倒慶應」は、春の新チームスタート時からずっと掲げていた目標。何度も慶應の試合のビデオを見て分析を重ね、必死に練習をしてきました。そして10月13日に秩父宮ラグビー場で迎えた慶應義塾大学戦は、24対18で16年ぶりの勝利。ノーサイドの笛が鳴ってゲームが終わった瞬間のあの感動は、一生忘れることはないと思います。

目標としていた「打倒慶應」を果たすことはできましたが、大会としては同率5位という結果に終わり、大学選手権に出場することは叶いませんでした。2014年度は20年ぶりの大学選手権出場を目指して努力していきたいと思っていますので、応援よろしくお願いいたします。

(主務:文学部史学科3年　小野 幸太)

AGUニューズについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニューズ」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニューズ専用スタンドにて配布しています。

●AGUニューズのバックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
●AGUニューズを確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

事務取扱窓口　青山キャンパス→スチューデントセンター・学生生活部
相模原キャンパス→スチューデントセンター・学生生活課

発行元:青山学院大学 入学広報部
TEL.03-3409-8627

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2014青山学院大学

●2014年1月31日発行●